



あおもりの未来
技術でサポート

野菜研究所ニュース

No.35 2024. 11

青森県産業技術センター 野菜研究所

< 掲載記事 >

- 野菜研究所「公開デー」が開催されました
- 営農大学校の講義を行いました
- インターン学生が訪れました
- 産業技術センター職員表彰を受けました

野菜研究所「公開デー」が開催されました

令和6年9月5日（木）に野菜研究所と農産物加工研究所が共催で「公開デー」を開催しました。野菜研究所では、例年どおり野菜販売、農事相談、成果パネルの展示並びにミニ講座を行いました。ミニ講座では、各研究部の最新の成果として、栽培部からは「省力化につながるナガイモの低支柱栽培」について、支柱高を慣行の180cmより低い160cmとした場合、収量・品質は変わらず、支柱立てやネット張り等の作業時間が10%程度短縮されることを紹介しました。病害虫管理部からは「知っておきたいナガイモの害虫のはなし」として、ナガイモに被害を与えるナガイモコガやアブラムシ類などの主要害虫の生態や防除法について、また昨年、突発的に発生したツマグロアオカスミカメの被害等についてわかりやすく紹介しました。



野菜販売に並ぶ参観者



ミニ講座

品種開発部からは「ナガイモ新品種「夢雪」誕生！」として、本年3月に品種登録出願した「夢雪」について、「園試系6」よりも長が短く、平いものが少ないなど品質が良好な特性を持つことや、一方で総収量がやや少ないため、現在、収量を増やす栽培法の開発に取り組んでいることを紹介しました。



農事相談に対応する職員



近隣小学校の生徒も参観訪問

共催行事として、JA全農あおもりによるにんにく共進会出品物の展示があり好評でした。にんにく共進会は公開デー前日の9月4日に審査が行われ、県内のニンニクを取り扱っている7農協から合計107点の出品がありました。形状の揃いや大きさなどの基準に基づく厳正な審査により、最優秀賞1点、優秀賞1点、優良賞5点が選ばれ、最優秀賞にはJA十和田おいらせ管内の生産者のものが選ばれました。

今年の公開デーは、昨年よりやや多い約300名の来場者でしたが、コロナ前（400名以上）よりは大幅に減少しており、今後、来場者を増やす工夫が必要です。

営農大学校の講義を行いました

10月2日、青森県営農大学校生徒が来所し、野菜病虫害各論の講義・実習が行われました。毎年2回に分けて行われる本講義では、野菜病虫害の発生生態や防除技術などについて、病虫害管理部の研究員が座学や野外実習により教えています。生徒は熱心に聞いていました。



営農大学生に対する講義の様子

インターン学生が訪れました

11月11日から5日間、東京農業大学の4年生がインターンとして訪れました。本学生は都内出身にもかかわらず農業を学びたいと北海道の農業高校に入学するなど大変意識が高く、今回も将来、農業を研究する職業に就きたいと当研究所を訪れました。インターン研修では、各研究部での研究内容の説明を受けるとともに圃場に出て主にナガイモの収穫作業を体験しました。大変優秀な学生であり、将来、産技センター職員となってほしいと思いました。



研究員とともにナガイモを収穫する学生(左)



学生を囲んでの昼食会

産業技術センター職員表彰を受けました

8月28日、産業技術センターの職員表彰式があり、当研究所新藤研究管理監が病虫部長時に取り組んだ「ニンニクのチューリップサビダニ被害を抑制する効果的な防除法の開発」が表彰されました。本研究はニンニク茎葉においてチューリップサビダニが寄生している部位やその推移を解明し、効果の高い薬剤をどの時期に散布すると本虫被害を効果的に抑制できるかを明らかにしました。この技術を現場に普及させることで、ニンニクの良品生産に貢献したとして表彰されました。



職員表彰された新藤研究管理監

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 野菜研究所

〒033-0071 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91 0176-53-7171